

一

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ここまでのあらすじ

《安中千里は、走ることが好きで陸上部に所属していたが、足を痛め現在休部中である。幼なじみの小木春人に誘われ、彼が活動している新聞部の臨時記者として「あがたの森動物園」取材し、ぶかつこうなチーターの剥製に出会う。生きていた時は速く走っていたであろうチーターの剥製に、走ることでできない現在の自分の姿を重ね、動物の剥製について関心を持つようになっていった。そして、動物園主催の絵画コンクールの取材や七〇年前の剥製を修理する水谷衛さんの作業を見学するうちに、「剥製」の目的のひとつである「復元」という作業の意味や意義を考えるようになっていった》

その日の朝、千里はひさしぶりに^A 気配のようなもので目を覚ました。

ベランダへ通じるガラス戸が、コッソ、コッソと小さな音をたてている。

みゃーお。

「……ブーニャン？」

千里はベッドからとび起きた。

あまりにあわただしくガラス戸を開けたせい、その剣幕に驚いたブーニャンが身を低くして警戒する。

ベランダでは、なにやら黒っぽい動物が朝日のスポットライトに照らされていた。

千里は足下に^①しゃがむや、ブーニャンをじつと見すえた。

「^② こういうの、持ってこないでつていったでしょう？」

足下の小動物を指でさし示す。

みゃーお。

ブーニヤンは巨体に似合わない甘ったるい声で返事をした。その瞳が縦に細くなっている。とりこむ光の量によって、瞳は大きくなったり小さくなったりをくりかえす。

そのことは理科の授業で教わって知っていたが、ライオンの義眼を思い出した千里は、ついつい瞳に見入ってしまった。若干、左右の虹彩の色がちがうようだ。

どうして、瞳が縦長に変形するのだろう。

フーッ。

千里が顔を近づけすぎたせいか、ブーニヤンは威嚇するようにのどを鳴らした。

「あっ」

巨体らしからぬ身軽さで、ひょいっと、賢吾の部屋のベランダへ逃げていく。一階の屋根に飛び降りると、③一目散に花壇のわきを駆け抜けていった。

ひとり残された千里は、ベランダの小動物へ目を向けなおした。

モグラ、だろうか？

こういう日のために用意しておいた布切れに、いつもよりていねいに死骸を包む。それから、クローゼットにしまいこんであつたスケッチブックを引っ張り出した。去年、美術の授業で使っていたものだ。

千里は床の上に体育座りをすると、もののあたりにスケッチブックをのせた。手つかずのページの右上に、タオルに包んだままの小動物をそっと置く。死骸がずっとすべり落ちそうになったので、あわてて足の角度を調節した。

ちいさな顔に、アクリイのような長い鼻がついている。ふたつの目は、どこにあるかわからなかった。くびれない筒型の胴体から、ピンク色の足が生えている。前足にいたっては、いきなり胴体からひょっこりと突き出ているようだ。爪

が鋭い。細かな黒い毛が小さな身体を密におおっているせいか、よくよく見なければ出血箇所はわからない。

千里はブーニヤンが狩ってきた小動物のスケッチを見ると、そのわきに、気づいた特徴を書いていった。

「千里ー？ 起きてるのー？」

そのとき、パタ、パタとスリッパを鳴らしながら、母親が階段を上がってきた。

「んー」

「なあに、その返事は。具合でもわるいの？」

母親が素晴らしいながらドアを開けたとき、部屋の空気が移動して、カーテンがふわっと風をはらんだ。

母親は、ふり返った千里の肩越しにスケッチブックの上に横たわっている物体を見つけたようだ。

「きゃーっ！ ちょっと、ちょっと。なにしてるのっ」

大きな声で叫ぶや、廊下へ後ずさった。

「うっせえなあ」

となりの部屋から、めっぽう朝に弱い賢吾の眠たそうな声が飛んでくる。

「どうしたんだっ？ なにかあったのか？」

廊下からは、心配そうな父親の声が飛んできた。

「お父さん、ちょっと来てちょうだい！」

「どうした、千里になにかあったのかっ？」

「だからあ、うるせえっていつてるだろお」

④千里はため息をこぼした。

その日は、朝から母親に小言をいわれるはめになった。

「本当に信じられないわ。死んだものをさわるなんて、なにを考えているの」

母親は、動物の死骸をスケッチしていたのがよほどショックだったようだ。声は一オクターブ上がったまま、なかなかもとに戻らない。

「素手ではさわってないっていつてるでしょう。それに、朝ごはんを食べる前に手は洗うつもりでした」

「そういう問題じゃないのよ。だいたい、死んだ動物を絵に描くなんておかしいでしょう」

食卓では、父親と賢吾が朝ごはんを食べている。賢吾は、ときおり千里のほうをうかがっては、にんまりと笑みを向けてくる。

その顔が憎たらしい。

「生きている動物はスケッチしてもいいのに、死んでるものはどうしていけないの？」

⑤「そんなこと。当たり前でしょう」

「どうして、当たり前なの？」

生きているときはさわるのが許されたものが、死んだとたんにさわってはいけないものになる。そのことに、千里はじめて違和感を持った。

「どうしてって、当たり前だからに決まってるじゃないの。まったく、屁理屈ばかり」
んだから。お父さん

「え？ ああ うん」

母親の鋭い目でにらまれた父親は、広げていた新聞紙をゆつくりたたんだ。

コーヒークップ片手にソファまでやってくると、母親と交代で、千里のとなりに腰を下ろした。

「モグラのスケッチをしていたんだって？」

「まだモグラかどうかはわからない。モグラっぽかったけど、ちがうかもしれない」

千里は正直に答えた。

「なるほど。それで、どうして千里はスケッチなんてしようと思ったんだい？」

父親がおだやかな声できく。

「その動物のことを知りたかったから」

「デジカメがあるだろう？写真に撮ればいいじゃないか」

父親がそういった直後、シンクで洗い物をはじめた母親がすかさず言葉を投げてきた。

「そういう問題じゃないでしょうっ」

「まあまあ、落ち着いて。⑥千里にもいいぶんがあるんだろう」

キッチンの方へ顔を向けて、父親がなだめる。

「写真に撮るのはかんたんだけど、それに満足したら細かなことまでは気づかないでしょう？」

「細かなことっていうと？」

父親にきき返されて、千里はいったん口をつぐんだ。

「あがたの森動物園」で園長さんの話を聞いたあと、千里は動物園に再入場してヒツジのスケッチをした。そのときはじめてヒツジの瞳のかたちを知ったのだった。

カメラのシャッターを押せば、画像を鮮明に残すことができる。けれど、それで本当に、細々した情報を手に入れたといえるのだろうか。千里は、写真を見たり、動物図鑑の解説を読んだりしただけでは、動物を知ったことにはならないと

思った。

千里の説明を、父親はうなずきながら最後まできいてくれた。

父親はローテーブルの上に置いてあったスケッチブックを手にとると、ページをめくった。

じきに、さっきまで千里が描^かいていたスケッチが現れる。横から見た構図と、顔だけをアップで描いたもの。

そこで、千里は口を開いた。父親の顔がいつになく硬直^{こうちよく}しているのがわかったからだ。

「お父さんは、死んだ動物にさわるような人間はとんでもないやつだって思う？」

「難しい質問だなあ。千里はどう思うんだ？」

「生きている動物にやさしくできる人はたくさんいると思う。だけど、その動物が死んだときにどんなふうに接するか。そういうところに、その人の人間性が出るんじゃないかな」

千里が思い浮^{おも}かべていたのは、あんなにもていねいに剥製の^C修復作業をしていた水谷さんの姿だった。

水谷さんや、博物館の人たちがしようとしていることがひどいことだとは、もはや千里には思えなくなっていた。

「動物は殺さない。だけど、機会があつたらこれからもスケッチはつづけていく」

⑦ 千里がそう宣言すると、⑧ キッチンから母親の大きなため息がきこえた。

(檜崎 茜「ぼくたちの骨」より)

問一 〓 線部A「気配」、B「調節」、C「修復」の読み方をひらがなで答えなさい。

問二 〓 線部①「しゃがむや」の意味として最適なものを、次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア しやがむ前に

イ しやがみながら

ウ しやがんで改めて

エ しやがむとすぐに

問三 〓 線部②「こういうの持ってこないでっていったでしょう？」と言っていますが、千里はブーニヤンに何を持っていますか。本文から十四字で抜き出しなさい。(句読点や記号も字数に数えます。)

問四 〓 線部③「一目散に」に近い意味の四字熟語を、次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 右往左往 イ 無我夢中

ウ 臨機応変 エ 以心伝心

問五——線部④「千里はため息をこぼした」とありますが、この時の千里の気持ちの説明として最適なものを、次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 自分の行動に大騒ぎをして、理解を示そうとしない母親に怒っている。
- イ 自分の行動をできるだけ隠しておきたかったのだが、隠せなかったことを後悔している。
- ウ 自分の行動によって朝から家族が大騒ぎしていることにうんざりしている。
- エ 自分の行動に、父親も弟も関心を示してくれないことを悲しんでいる。

問六 傍線部⑤「そんなこと。当たり前でしょう」とありますが、母親はどのようなことが「当たり前」だと言っていますか。本文中から二十字以内で抜き出しなさい。（句読点や記号も字数に数えます。）

問七 に入れるのに最適なものを、次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

- ア こねる イ ひねる ウ つねる エ まねる

問八——線部⑥「千里にもいいぶんがあるんだろう」の千里の「いいぶん」とは何ですか。「～こと」に続くように本文中から四十字で抜き出しなさい。（句読点や記号も字数に数えます。）

（ 四十字 ） こと。

問九——線部⑦「千里がそう宣言すると」とありますが、この時の千里の気持ちとしてあてはまるものを、次のア～エの中から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア この機会を利用して、生意気な弟に姉としての優しさを示そうとする意気込み。
- イ 動物のことを深く理解するために、死んだ動物をスケッチするのは悪いことではないという確信。
- ウ 博物館の人たちに自分の剥製にかける情熱を理解してもらうのは無理だというあきらめ。
- エ 水谷さんや博物館の人たちの考えを理解し、自分も同じように行動しようとする決意。
- オ 両親が千里の話をまったく理解しようとせずに、一方的にしかりつけることへの腹立ち。

問十——線部⑧「キッチンから母親の大きなため息がきこえた」とありますが、この時の千里に対する母親の気持ちとして最適なものを、次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 反省
- イ 失望
- ウ 感心
- エ 安堵 あんど

問十一 あなたの経験の中で、じっくり観察をして新しい発見をしたことについて、「何を観察してどんな発見があったか」を具体的に示し、八十字程度で書きなさい。(句読点や記号も字数に数えます。) なお、段落を分けるための改行をしないこと。

二

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

砂糖の消費が世界水準の基準になるといわれたのには、もうひとつ理由があります。それは、ほかでもない、砂糖は世界中のどこから好まれるということです。あとでこの本の主な話題のひとつになる、近代初期の世界でひろく取引された商品——「世界商品」とよんでおきます——となった食品のなかでも、たとえば、コーヒーやお茶は、はじめて飲んだときにはおいしいというより、苦い^{にが}と思ったり、渋い^{しぶ}と思ったりする人もいるでしょうし、とくに子どもはそうでしょう。また、同じ時代に世界にひろがったタバコなどでは、はじめて吸ってみて快適に感じる人は少ないはずです。お酒のたぐいも同じでしょう。

【ア】

これに対して、生理学的な理由はいまだによくわからないのですが、砂糖の甘味^{かんみ}は、赤ちゃんをふくめて、はじめて口にした人がすべて好きになってしまふのです。お酒の好きなお父さんなどで、「甘いものは嫌い」という人もたくさんいますが、あれは大人になって、しきりにお酒を飲むようになったせいで、味覚が変わっただけです。あの人たちも、子どものころは、砂糖が大好きだったはずなのです。こうして、砂糖は、おおかたの人びとに好まれますから、^①とくに「世界商品」になりやすい性格をもっていたのです。

「世界商品」の意味は、毛織物と^A綿織物とをくらべるとよくわかります。一般に^②寒冷で、^B牧羊業のさかんだったヨーロッパでは、中世らしい毛織物がつくられていましたので、ヨーロッパ人が中国やインドなど、アジアやアフリカに来るようになったときも、しきりにこれ売りつけようとしていました。そもそもヨーロッパ人が外の世界に探検に出かけたのも、ひとつにはヨーロッパで売れ行きの伸びない毛織物の市場を求めていることだったのです。

③

、むしろ暑いインドやアフリカでは、分厚い毛織物などは、ほとんど受け容れられませんでした。これに対して、

薄くて、洗濯がしやすく、^C 鮮やかな色のプリントができる綿織物は、もともとアジア、とくにインドが生産の中心でしたが、アフリカやヨーロッパにもたいへん好まれました。^④、ヨーロッパにしか通用しなかった毛織物とちがって、綿織物は「世界商品」だったのです。

むろん、「世界商品」は、食べ物や衣料には限られてはいません。こんにちでいえば、石油やテレビや自動車も典型的な「世界商品」なのです。いいかえると、それはアフリカの奥地でも、ヒマラヤでも使われているような商品のことです。

むろん、「世界商品」となった重要な商品——英語では「ステイプル」といいます——を独り占めにできれば、大きな利益をあげられることはまちがいありません。ですから、一六世紀いらいの世界の歴史は、^⑤ そのときどきの「世界商品」をどの国が握るか、という競争の歴史として展開してきたのです。

しかも、いまでは自動車やテレビのような工業製品や石油なども重要ですが、もともとこうした「世界商品」は、アジアやアフリカ、アメリカの鉱山や農場でとれる生産物が多かったということが出来ます。こんにちの中南米や日本でとれた銀や、タバコや香料、染料、茶、コーヒー、ゴムなどです。生活文化の基本をなす植物や動物、その工芸製品などは、気候や土壌の条件からしても、アジアやアフリカ、アメリカのほうが、種類も量もはるかに豊かだったということが出来ます。そのために、とくにヨーロッパ諸国は、これらアジアやアフリカの土地を、自国の植民地として囲い込み、外国の勢力を排除することになったのです。

「イ」

ブラジルやカリブ海の島々には、砂糖生産のために、プランテーションとよばれる大農園がつけられました。プランテーションでは、砂糖きびの栽培とその加工ばかりに努力を集中し、^⑥ それ以外の活動はいっさい顧みられませんでした。たとえば、穀物のような基本的な食糧でさえも輸入に頼り、ひたすら砂糖きびの栽培に集中していったのです。

こうしたプランテーションには、ヨーロッパ諸国の資本、なかでもイギリスの資本が注ぎこまれ、数千万人のアフリカの黒人が、ここにつれてこられたうえ、奴隷として強制的に働かされていました。白人の労働者を使うことも考えられま

したが、安上がりに大量の^⑦を得る方法として、アフリカ人をつれてくることが考えられたのです。こうした奴隷貿易は、連行されて奴隷とされた人びとだけでなく、当然、もとのアフリカの社会にも大きなつめあを残しましたが、その話はのちにのべることにしましょう。

「ウ」

ちなみに、やがて、アメリカ合衆国の南部では、もうひとつの「世界商品」となった綿織物の原料をイギリスに提供するために、綿花栽培のためのプランテーションが、やはりアフリカ人奴隷を^⑧としてひろがることになります。あなたがたは、こんにちのアメリカ合衆国はもとよりカリブ海の島々やイギリスにも、多くのアフリカ系の人びとが住んでいるのはなぜか、考えたことがあるでしょうか。それは、このように、ヨーロッパとアジア・アフリカ・アメリカとの関係の長い歴史があつてのことなのです。

「エ」

こうして、砂糖や綿織物のような^⑨「世界商品」は、地球上の人間の配置をすら変えてしまいました。ダイエットの流行で、砂糖がむしろ警戒の目をもってみられ、ナイロンやビニールにはじまる化学繊維の登場で、綿織物がもはやそれほど重要ではなくなったいまでも、それらの影響はつよく残っているのです。

砂糖や綿織物の歴史をみることは、近代の世界だけでなく、現代の世界を知るうえでもきわめて大切だというのは、このような意味からなのです。

ところで「世界商品」となった砂糖は、いったい何に使われたのでしょうか。砂糖は、そもそも食品だったのでしょうか。食品であつたとしても、カロリー源としての「食糧」だったのでしょうか、それとも、たんなる調味料だったのでしょうか。じつさいのところ、砂糖には、驚くほど多くの用途や「意味」がありました。ルネサンス以前の世界では、イスラムの科学水準がヨーロッパのそれなどよりはるかに高かったのですが、そのイスラムの医学では、砂糖はもつともよく使わ

れる薬のひとつでした。中世のヨーロッパでも、事情は同じです。砂糖が本格的に使われはじめた一六、一七世紀には、砂糖には、結核の治療など一〇種類以上の効能が期待されていました。

砂糖はむろん、アジアから輸入されたコショウや香料などと同じで、よほど高級な調味料でもありませんでした。しかし、^⑩砂糖、とくに白砂糖には、何か特別に神秘的な意味があるともみなされ、しばしば、精巧な細工ものとして、国王や貴族のパーティーや儀礼にも用いられました。いまの結婚式で使われるウェディング・ケーキもその名残りだという考え方もあります。砂糖が元来はひどく高価なものであったことも、それが神々しくみえ、権威の象徴のようにみえた理由のひとつでしょう。

しかし、砂糖の神秘性の最大の理由は、やはり、純白というその色にあったと思われる。日本人が、浄めの儀式にしばしば塩を用いてきた——力士が土俵で塩をまくのも同じ——のも、似たような事情からでしょう。純白という色に何か特別の意味を感じるのには、理由はよくわかりませんが、日本人だけでもないようなのです。

(川北稔「砂糖の世界史」より)

問一 線部A「綿織物」、B「牧羊」、C「鮮やかな」の読み方をひらがなで答えなさい。

問二 この文章には次の の段落が抜けています。段落が入る場所として最適なものを、本文中の【ア】～【エ】の中から選び、記号で答えなさい。

そういうわけで、歴史を動かしてきた「世界商品」のもっとも初期の例が、ほかでもない砂糖でした。ですから、一六世紀から一九世紀にかけて、世界じゅうの政治家や実業家は、砂糖の生産をいかにして握るか、その流通ルートをどのようにして押さえるか、といった問題に知恵をしばってきたのです。

問三 線部①「とくに『世界商品』になりやすい性格をもっていた」とありますが、その理由をそれぞれ指定の字数で本文中から抜き出さない。(句読点や記号も字数に数えます。)

(五字) は、(二十二字) から。

問四 線部②「寒冷」の対義語(反対の意味の言葉)を漢字で答えなさい。

問五 ③、 ④ に当てはまる語の組み合わせとして最適なものを、次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

- ア ③さらに ④なぜなら
イ ③しかし ④つまり
ウ ③さらに ④つまり
エ ③しかし ④なぜなら

問六 —— 線部⑤「そのときどきの『世界商品』をどの国が握るか、という競争」とありますが、具体的にどのようなことが行なわれましたか。本文中から三十九字で抜き出し、始めと終わりの五字を答えなさい。（句読点や記号も字数に数えます。）

問七 —— 線部⑥「それ」が指す内容を本文中から抜き出さない。

問八 ⑦、⑧には同じ言葉が入ります。最適な言葉を、次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 資金源 イ 調味料 ウ 植民地 エ 労働力

問九 —— 線部⑨「『世界商品』は、地球上の人間の配置をすら変えてしまいました」とありますが、どのようなことですか。その説明として最適なものを、次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア そのときどきの「世界商品」を確保するため、過去に多くのヨーロッパ諸国の人びとがアジアやアフリカ、アメリカの鉱山や農場を訪れ、利益をあげていたこと。

イ 「世界商品」を独り占めするために、過去にブラジルやカリブ海の島々、アメリカなどにたくさんのプランテーションがつくられ、イギリスの資本が注ぎこまれたこと。

ウ 「世界商品」の栽培のため、過去に多くのアフリカ人がアメリカやカリブ海の島々に連れてこられ、今でもその地域に多くのアフリカ系の人びとが住んでいること。

エ 砂糖や綿織物が「世界商品」としての価値を失い、ナイロンやビニールなどの化学繊維が登場した現代でも、「世界商品」を追い求めるという人びとの動きに変わりはないこと。

問十 —— 線部⑩「砂糖、とくに白砂糖には、何か特別に神秘的な意味があるともみなされ」とありますが、なぜ砂糖は「神秘的」なものともみなされたのですか。本文中の言葉を用いて四十字以内で説明しなさい。（句読点や記号も字数に数えます。）

三

次の各問いに答えなさい。

問一 次の①、②の各文の~~~~線部と、——線部が同じ意味で使われているものを、それぞれア、エの中から選び、記号で答えなさい。

① 優秀選手に選ばれる。

ア おじいさまの人柄がしのばれる。

イ 交差点で足を踏まれる。

ウ 町の中心を流れる川。

エ 電車に乗ったら遠くまで行かれる。

② 私の飼っているうさぎは太り気味だ。

ア 彼の犬はよくしつけられている。

イ 悲しいのを隠す努力をした。

ウ ひまわりの咲く丘を目指して歩く。

エ かぜのために欠席する。

問二 ——線部の敬語が正しく使われているものを次のア、エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 先生は私の作文を丁寧に拝見しました。

イ 保護者の皆様が参る前に教室を準備しましょう。

ウ 隣に住む田中さんはご無事でいらつしゃいました。

エ 私が先生のかばんをお持ちになります。

問三 ①、②の各文の~~~~線部の言葉がかかっている部分を、それぞれ——線部ア、オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

① せっかく~~~~ア おばあさんから~~~~イ いただいた~~~~ウ 美しい~~~~エ かいがらを~~~~オ 落としてしまった。

② ア 友達は~~~~イ 一日中~~~~ウ 悩んで~~~~エ 納得した~~~~オ 様子だった。

四

次の――線部を正しく漢字に直しなさい。送りが必要なものは、ひらがなで書きなさい。

- ① 日本列島をジュウダンする。
- ② 説明を聞いて、ナットクする。
- ③ サクリヤクをめぐらす。
- ④ シュクガパレードを行う。
- ⑤ シャソウから外を眺める。
- ⑥ 柿の実が赤くウレル。
- ⑦ ホガラカニ笑う。
- ⑧ 祖母の話が心にシミル。
- ⑨ 祭りのみこしをカツグ。
- ⑩ 神社には、オゴソカナ空気がただよっていた。

受験番号
氏名
得点